

# 東方幻惑録

\_Takeru\_

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## あらすじ

ある日、霊夢が霧雨店にいったときだった……

# 目次

東方幻惑録

---

1



# 東方幻惑録

霊夢「また妖精ね…妖精はどこにでも沸くから大変なのよ」  
夢想封印！

霊夢「をするまでもないわね」

チル「この、はなせー！さいきよーだぞー！」

ボゴツ

ドゴオオオオン

霊夢「ふう」

ボゴツ

「春は暖かいわね」

「お賽銭はいつてるかしら」

お、お賽銭10万円だと」

「お賽銭だあくわ、しよ〜い」

夢才チ

魔理沙 「うちはラーメン屋なんですがー」

アリス 「ふざけてんじゃん！」

霊夢 「あれ？霧雨店どうしたの？」

魔理沙 「こちらアメリカです。」

霊夢 「アメリカ？」

霊夢 「魔理沙

霊夢 「ここ幻想郷よ？」

魔理沙 「射命丸で10分です」

霊夢 「なにいつてるの？」

霊夢 「アリス、魔理沙おかしくなったのかしら？」

「パチュリーにでも相談しましよ、本ばつか読んでるあいつならわかるかも知れないわ」

く紅魔館く

霊夢 「パチュリー？」

霊夢 「パチュリーいないのー？」

霊夢 「おかしいわねえ」

霊夢 く霧雨店く

霊夢 「魔理沙、なおった？」

霊夢 「あれ、みんなどこいったのかな

霊夢 「かんじやった」

まり 「たまた、大変だ霊夢！みんながおかしくなってる！」

霊夢 「魔理沙治ったのね、でもそのかわり皆がおかしくなつたと

霊夢 「なにくわせたの？」

霊夢 「またへんなどクではないでしょうね」

まり 「わたしはなにもしてない！みんな目がうつろになってどこかにとんでいったんだ

霊夢 「はあ？また異変か…」

霊夢 「とりあえずいくわよ」

霊夢 「で、どこにむかったのよ」

「また霊界？それとも紅魔館？」

まり 「追つてたんだが、一斉に襲ってきてわからなくなつたぜ…」

霊夢 「おそつてきた？」

「闇雲に探すしかないわね」

まり 「あれはもう弾幕ごっこじゃない！ただの殺し合いだ！」

?少女探索中?

飛行中の出来事

霊夢 「そーいや殺し合いとか行つてたけど

霊夢 「紅魔館とかの奴らも?

霊夢 「いつたい誰が黒幕なのかしら...」

魔理沙 「襲つてきたのはこうまかんのみんなとアリス、そしてようむだ」

霊夢 「つまり、紫、幽々子、文、鬼とかには教われないのね?」

「ああ、そうだぜ」

「とりあえず事情聴取してみましょ」

少女探索中,,,,,



霊夢 「魔理沙なにかみつかった？」

魔 「こっちは何も・・・」

ドーン魔

「な、なんだぜ!?!」

紫 「・・・」

魔 『紫か? どうしたんだ?』

霊夢 「紫? なんであんたがここにいるのよ」

紫 「・・・ あなたたちを・・・ 殺す!」

霊夢 「ゆ、ゆかり! どうしたのよ

ここは戦うしか・・・

邪魔をする者は問答無用!」

シユドドドツツどどどどどどど

魔 「もらったぜ! マスター・・・ な!?

ドゴオオオオオオオ

ガバッ

霊夢 「魔理沙何やってるのよ」

魔 「すまん霊夢、ゆだんしてたぜ」

霊夢： 「くるわよ」

霊夢： 「結界をはるか」

ここでっ！

霊夢： 「夢想封印!!!!!!」

魔 「こうなつたら、!!使いたくなかつたんだが：： いくぜ！実験「魔法研究の成果」

いまよ！魔理沙！！！！

魔？ 「いきなりか、まあいい、いくぞ！夢想スパーク！」

紫 「ぐ!?!、がああああああ」

霊夢： 「うおおおおおおおおお」

霊夢： ふ、ふう

霊夢： 「終わった：：?」

霊夢： 「ま、まだ、人が：：きている」

霊夢： 「紅魔館の奴ら+αだ」

魔？ 「やばいな、逃げるか、どうする？霊夢」

霊夢： 「倒さないと先に進めない。。。けど」

霊夢： 「夢想封印はしばらく使えないし：：」



ん

「やつ…た…？」

魔 「やった！霊夢！みんな気絶してる！

霊 「でも、黒幕は誰かしら？」

魔 「さあ？私には見当もつかない、そういえばいつてなかったな、私は10年後の私だ」

霊夢 「はい？じゃあ今の魔理沙は、というか、老けてないわね」

魔 「さつき使ったスペカ 実験「魔法研究の成果」は20分の間入れ替わるんだ」

霊夢 「ん、ということはさつき戦う前の魔理沙はイマの間理沙なの？」

魔 「まあそうなるな、ちなみにもう効果切れる」

ボン

魔 「ふう、なんとかなったぜ」

霊夢 「おおかえってきた」

魔 「あつちにいるとき暇だったぜえ」

霊夢 「お。おう」

霊夢 「未来は何も無いの？」

魔「ああ、特に何もなかったな、いつもの幻想郷ってただけだぜ」

霊夢：「そう、未来は安全あのね」

霊夢：「また、いつもの生活に戻るのね」

魔「ああ、この異変は解決するはずだ、がんばろう」

（ED）